

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
発行者 松田邦雄
編集 調査研究部

表情のある「あいさつ」を



副会長
隅田 浩



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編
松山市立子規記念博物館 監修

「あいさつ」というのは難しいものがございますね。なぜ難しいかという、「こんにちは」には、意味がありません。こんにちはどうしたというのでしょうか？『こんにちは、結構なお天気でございますね。』なら意味は通じるのですが、『こんにちはどうしたんですか？』と聞く人はいないわけで、「こんにちは」で済むわけがございます。『こんにちは』その後、『どちらへ？』と尋ねられても、『ちょっとそこまで』と答えます。『それは結構ですね』となってこの会話は終わります。「こんにちは」だけでは何も分からないのですが、それでいいのです。」と話すのは、好きな落語家の一人だった、桂枝雀の落語「くやみ」の「まくら」です。そして、「あいさつ」はそれ自体に意味をなす言葉なのではなく、お互い安心するための符丁です。犬でも猫でもどんな動物でも怒っている時は、表情や態度に表します。人間という動物だけは、自分の周りに見せる表情と実際の心の有様を違えることができる唯一の動物なんですね。そこで「あいさつ」を交わすのです。「あいさつ」をすることで『少なくともあなたの敵ではありませんよ。』と伝えているのです。」と続きます。

さらに、この落語の演目は「くやみ」ですので、「いろいろな「あいさつ」の中で、一番難しいのが『くやみ』やそうですね。お悔やみは難しいもので、何を言っているか相手に伝えません。一言だけはっきりお伝えするのは、ワンフレーズ『この度は何と申し上げてよいやら』だけ。後は顔が仕事をします。ツーアクション『首を縦と横に振る動作』。このスリーエレメントだけで構成されていくのであります。顔も悔やみ顔をいたします・・・。」と続きます。

今、子どもたちの携帯電話やスマートフォンの所持率が高くなり、SNSでの問題が頻繁に起きるようになりました。無機質な画面上の言葉の羅列では誤解もされます。たとえ、お茶目な表現にしたとしても、絵文字を添えたとしても、相手には気持ちは正しく伝わらず、自分の思いとは別の受け取り方をされると、思わぬトラブルへと発展します。

よい人間関係を築くには、まず「あいさつ」から。朝、出会ったら、「おはよう」と挨拶しましょうと指導していますが、ただ単に、「おはよう」や「こんにちは」ではダメなのです。自分から「あいさつ」ができる人とは、相手の人に安心の気持ちを抱かせることができなくてはならない。「おはよう」「こんにちは」と言うだけでなく、言葉に表情を乗せたいものです。それは言い方であったり、声の大きさ・表情・動作であったりするのでしょうか。今日も朝から、いい顔で、いい響きの声で、そして元気に、「おはようございます」と、「先にこちらから」を意識したいものです。

あっ、私と同様、犬連れ散歩中の方が、向こうから近付いてきました・・・。

平成26年度 教育功労者 松山市教育会



松山市教育会では、本年5月16日の松山市教育会定期総会において、以下のとおり、4氏に第48回教育功労賞を贈り、表彰しました。

西原 明氏

人権・同和教育については、平成4年から旧北条市教育委員会同和教育室に5年間勤務し、同和教育の推進に努めた。当時の市行政の熱意を一身に背負い、人権・同和問題解消に向けて、温かさと厳しさと感動を大切に粘り強く尽力した。その姿は、職場は勿論、住民にも大きな変化を与えた。また、北条市同和教育研究大会の企画・運営等にも尽力し、松山市との合併後も適切な指導助言に努めてきた。

社会教育においては、平成18年度から2年間正岡公民館長を務め、住みよい地域づくりにつながる学習会、集会等を開催し、住民の自主的な教育活動の活性化に努めた。また、平成20年度から6年間、国津高齢クラブ会長を務め、高齢者福祉のため、健康増進及びレクリエーション活動に取り組んだ。

中島 敬一氏

平成7年度から現在まで、松山市教育会たちばな支部の支部長を務めた。公民館活動では、通算14年間にわたり針田分館長を務め、地域の活性化に多大の貢献をしてきた。地域活動とともに、教育会支部活動の活性化に多大の貢献をするとともに、松山市教育会の充実・発展に尽力してきた。その功績は大である。

また、たちばな小学校評議員、児童クラブ幹事、放課後子ども教室学習アドバイザーを務め、たちばな小学校の子どもたちにとって、なくてはならない存在となっている。さらに、松山スケートスポーツ少年団において、20年以上にわたってスケートや水泳指導に携わり、子どもたちの競技力向上に尽力するなど、今なお教育界へ多大の貢献をしている。

楠本 雅人氏

松山教育事務所において5年間、松山市教育委員会においても5年間指導主事を務めた。特に、英語教育への関わりは多大であり、教科訪問等において適切な指導を行い、学校現場の英語力向上に貢献した。

校長として、高浜中学校では、地域と密着した学校づくりに全力で取り組んだ。また久米中学校においては、「中学生英語力レベルアップ事業」の研究指定校として、コミュニケーション能力の向上に努めた。さらに、道後中学校では、正義が通り努力が報われる学校、基礎学力を定着させる学校、自治活動を推進し活気に満ちた学校づくりに尽力した。

平成26年度は、松山市中学校校長会会長を務め、校長会の活性化や研究活動の推進に積極的に取り組んだ。

窪田 一生氏

過去6年間、松山市教育委員会において、指導主事、指導係長、管理指導監を歴任し、教育現場への指導において、その貢献度は絶大である。特に、迅速で的確な事件・事故への対応により問題を解決したり、生徒指導、体育教育に関して各種研究会で明確な指導助言を行う等、その業績は多大である。

平成24年度からは、松山市立味酒小学校長として、松山市内最大規模の学校経営に尽力し、50名を超える教職員一人一人の資質や能力を見極め個性を大切にしつつ、その組織化を図り、児童や保護者が抱える多くの困難な事項の対応と解決に取り組んでいる。

現在、松山市小学校長会の会長として、校長会の活性化に尽力するとともに、小中学校の生徒指導顧問校長として、児童生徒の健全育成を推進している。

松山市教育会「教育功労者表彰に関する規程」より

第1条 この規程は、松山市教育会会則第4条第4号に基づく事業を行うために定めるものである。

(目的)

第2条 この表彰は、会員の中で、学校教育及び社会教育の伸展に著しく貢献した個人または団体に対して、その功績をたたえとともに会員の意欲の高揚を図り、松山教育の向上発展に寄与することを目的とする。

(内容)

第3条 表彰は、次の功績に対して行う。

- 1 学校教育について、顕著な功績のあったもの。
(学校経営、学級経営、各教科及び教科外等の研究や実践)
- 2 社会教育について、顕著な功績のあったもの。
(各種の社会教育活動、学校と家庭、社会との関連に関する教育活動)
(一部抜粋)

第8回教育講座①



学校で役立つ心理技法

講師 愛媛県総合教育センター 教育教育室

指導主事 渡部 俊 先生

平成27年8月5日（水）午前10時から、エスポワールえひめ文教会館を会場に、今年度1回目の教育講座を開講した。開会にあたり、松山市教育会 松田 邦雄 会長から「社会の中に負の連鎖と思われるような悪い流れが見られる。それを止めるのは学校教育に期待するしかない」との力強い挨拶があった。続いて、講師より次の通りお話いただいた。

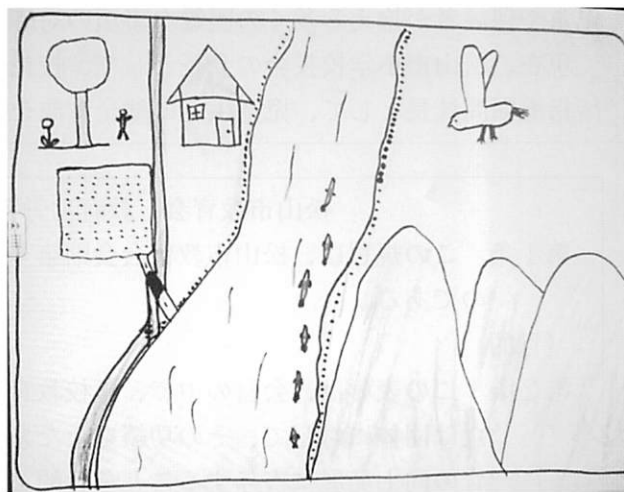
1 児童生徒理解の技法

(1) 描画法（樹木画）

樹木画による描画法は、被検者に対して「（実のなる）木を用紙に描いてください」と教示し、描き終わるまでは、声を掛けず穏やかに見守る。描いた絵について、「どんな木？ 何の木？ 高さは？ 樹齢は？ この木は将来どうなる？ 季節は？ どこに生えている？ 描いた感想は？」等の質問を通して被検者と会話をしながら本人の心理状況を探る。留意点は、被検者が描いたものを決して否定せず、大切に扱うことであり、樹木の絵から本人の特徴を決めつけることなく、「・・・かもしれんなあ」という気持ちで参考程度にとどめることである。

(2) 描画法（風景構成法）

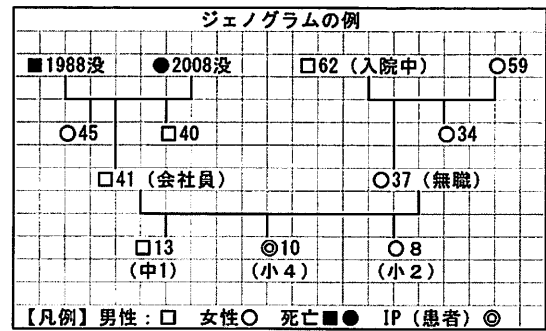
いわゆる「箱庭法」といわれるものであり、被検者との信頼関係があれば効果がある。方法は、画用紙に適当に枠を記入し、被検者に渡す。そして、この枠の中に、川・山・田・道・家・木・人・花・動物・石を描かせる。（右はそのイメージ。これらを一度に示すのではなく、川から順に一つずつ提示し、描かせること。この中に学校を含めると、それをどこに配置したかで被検者の学校観が現れることがある）描画後の質問としては、「季節は？ 時刻は？ 天候は？ 川の流れる方向は？ 人がしていることは？ ここにあなたはいる？ この後どうなる？」等が考えられる。



2 家族理解の技法

子どもは家族の相互作用の中で生きていることから、子どもをより理解するために、その家族を知ることは有効な手段である。そこで、本人から祖父母の世代までの家族を図式的に示したジェノグラム（右図参照）を紹介いただいた。ジェノグラムを用いることで、○子どもの「環

境」としての家族について理解が進む ○本人と家族との「関係」について理解が深まる ○家族に対する子ども自身の気づきのきっかけになる等の効果が考えられる。留意点として、個人情報の適切な管理や人権侵害にならないための慎重な配慮が必要となる。



3 関わり（面接）の技法

面接において有効な方法の一つとして、「解決志向短期療法」が紹介された。これは、身の回りに起きている問題を話題にする問題志向の会話ではなく解決志向の会話を取り入れていくということである。

具体的な技法について次の通り教授いただいた。

【知らない姿勢】

ワンダウンポジション、ワンダウンテクニックと称されるような「教えてもらう姿勢」をとることである。具体的には「～について教えてください。 どうやってそれができたの？ ～してくれると助かるわ？」など、問題やその解決に関する情報は、本人が一番よく知っているという前提の下に会話を進める技法である。

【コンプリメント】

ここでの面接にいたるまで、本人には様々な戸惑いや頑張りがあったはずであるという前提の下、褒めることやねぎらうことを意識して会話する技法である。具体的には、「～できるなんてすごいですね。 ここまでよくやってこられましたね。 頑張ってきたんですね」など、決して評価的な立場でなく、しっかりとねぎらうことが大切である。【リフレーミング】

外的な資源や本人の性格等について改めて価値付けし、できるだけポジティブに捕らえていくとする技法である。初めは不自然な場合もあるが、努めて取り入れることが重要である。

【質問の仕方】

○ スケーリング・クエスチョン…一番楽なときが1で、一番しんどいときが10としたら、今のしんどさはどのくらい？（1～10の目盛りで状態を測る）

○ コーピング・クエスチョン

「どうしてできたの？」ではなく「どうやったらできたの？」

児童理解は難しい。子どもの目の輝き、身なり、持ち物等の変化を見逃さないとともに、具体的・科学的な技法を用いて子どもの理解を深めてほしい。

参加者の内46名からアンケートの回答を得た。ほとんどの参加者が「よかった」と回答しており、有意義な講座となった。参加者の主な感想は次の通りである。

- ・具体的な技法を分かりやすく教えていただき、今後の実践に役立つ内容であった。
- ・共感、受容から一歩進んだヒントが得られた。
- ・子どもたちにかける言葉について、気を付けていこうと思った。
- ・問題の原因を探しがちだが、解決思考の話で進めていくことが大切だと思う。
- ・教師の心構え的なところを再確認できた。

第8回 教育講座②



道徳指導

講師 愛媛県総合教育センター 企画開発室

指導主事 山岡 健二 先生

平成27年8月26日（水）午前10時から、エスポワールえひめ文教会館を会場に、今年度2回目の教育講座を開講した。まず、松田邦雄会長から、今大きな関心事となっている道徳科について、「本日山岡先生からお話していただいたことを、各学校に持ち帰り、先生方に伝えてほしい」という挨拶があった。続いて講師から、今年度から一部改正された学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能になった、道徳についての講話があった。

1 平成27年3月27日に公示された小学校学習指導要領の概要

(1) 改正の主なポイント

「特別な教科である道徳（道徳科）」と改正し、検定教科書を導入する。目標を簡潔な表記に改善し、いじめ問題への対応の充実、内容を体系的なものにして、指導方法の工夫をする。

(キーワード)

発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童（生徒）が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る。

(2) 特別の教科 道徳の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(3) 道徳教育（道徳科）の内容

教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題であり、内容項目は、指導に当たり取り扱う内容であって、目標とする姿を表すものではない。したがって、児童（生徒）に対して一方的に内容項目を教え込むような指導は適切ではない。

(4) 学校として取り組むこと

ア 学校の進むべき方向性を決め、基本の方針について共通理解を図る。

道徳教育の抜本的改善・充実 平成27年3月

道徳の時間の課題例

- 「道徳の時間」は、各教科等と比べて軽視されがち
- 読み後の登場人物の心情理解のみに留った形式的な学び
- 到達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に坐まいしと思われる分かったことを言わたり書かせたりする授業

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「特別の教科 道徳」(「道徳科」)(引き続き週1時間)として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正

具体的なポイント

- ☑ 道徳科に検定教科書を導入
- ☑ 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
 - ・「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際貢献」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ☑ 「問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- ☑ 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握(家庭小・中学校はこれまで通り、「道徳科」に代えて「道徳」を行うことが可能)

「考え、議論する」道徳科への転換により
児童生徒の道徳性を育む

平成27年度から、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組可能

今後

- ☑ 教員の指導力向上のため、教員養成や研修の充実等について検討
- ☑ 評価について専門委員会を設け、専門的に検討

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」を実施

文科省のリーフレット

- イ 生きて働く指導ができるように、指導計画（全体計画、年間指導計画）を改善する。
- ウ 指導体制の充実を図る。（複数教員がチェンジ、複数教員によるTT、管理職による授業）
- エ 学校や家庭や地域との連携を強化する。

(5) 「私たちの道徳」の活用

道徳科での活用だけでなく、学校の教育活動全体で、家庭や地域で、また児童生徒の自主的な活用を図る。

(6) 評価

数値評価ではなく記述式に。また、相対的な評価ではなく、いかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行う。また、個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえて行う。発達障害等の児童についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有する。現指導要録の既存の欄を含め、その在り方を総合的に見直す。

(7) 道徳の時間の在り方

道徳の時間の授業で感じること

- 道徳の時間を教師が占領しすぎている。
- 教師が発問し子どもが反応することを繰り返している。
- 一人一人の考えの違いをそのままにしている。
- 主人公の気持ちを問い続ける「浅い読解」から抜けられていない。



道徳の時間の在り方

- 子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく。
- 子どもの問題意識を大切にする。
- 主人公の気持ちを考える。
→主人公の立場で「生き方」を考える。
- 多様な考えを十分に生かす。
多様な考えを並べる→とことん話合う。

2 演習

「私たちの道徳3・4年」に掲載されている「六セント半のおつりーリンカーンの話」を基に、実際に主題名、ねらい、中心発問などを考えた。

3 まとめ

「年間指導計画に従って指導することが大切であるため、不用意な変更は、避ける。変更は、校長の許可を得なければならない。道徳の時間が教師にとって一人一人と向き合える余裕のある時間になってほしい。また、今日の話で、先生たちがやってみたいという気持ちになってくれたらうれしい。」と山岡先生は、まとめられた。



山岡先生の軽妙な話し方と内容の分かりやすさにより、参加者の満足度は、非常に高かった。

- ・道徳の教科化や新学習指導要領について、最新の情報を聞く事ができてよかった。
- ・意見の出っぱなしの指導について自分自身悩んでいたところだったので、問い返しの方法やまとめ方など大変参考になった。
- ・資料に基づいた具体的な演習がよかった。
- ・評価については、（特に指導要録）まだ不安が残る。

ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、怒和小、津和地小、中島小、三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、粟井小、北条北中、北条南中

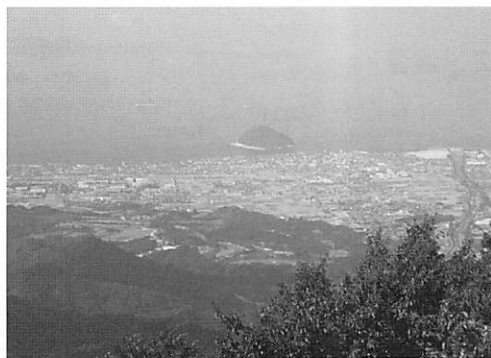
ブロック紹介

第9ブロック理事 横田 勇三

第9ブロックは、旧北条市の小中9校の校区で構成され、「松山市教育会北条ブロック」と称しています。平成17年に松山市と合併し、10年目を迎えました。

古い時代には伊予国風早郷と呼ばれ、東に高縄山系が連なり、北には仙波ヶ嶽、南には粟井坂、西には斎灘が開け、沖には鹿島と安居島があるといった地形を擁した天然の要塞として栄え、今もなお、残された史跡が先人の思いや願いを語ってくれています。

そのような文化の香り高い北条ブロック教育会は、OB会員109人（平成27年4月17日現在）と現職会員で構成されています。今年度も春のブロック総会・懇親会、夏の楽しいランチ、秋の1日研修旅行、グランドゴルフ大会を計画・実施しています。OB会員と現職会員との距離感が近いのが特長で、それぞれの事業のなかで、温かく濃密な交流が図られています。またOB会員は、校区の学校の役に立ちたいという熱い思いをもち、会員相互の親和、教育の進展に寄与するための縁の下力もち的存在として活動しています。今後も「参加して元気になる」活動を目指し、努力していきたいと思っています。



高縄山から鹿島を望む

本年度の文化講座のご案内

福利厚生部

現在開講中の文化講座について、ご紹介します。

- 囲碁・将棋教室 月1回 第1土曜日午後実施 大場武志先生のもと会員20名
- 俳句交歓会 月1回 吉田晃・近藤良郷先生のもと会員12名
- ヨガ講座 月1回 第2土曜日午後実施 脇坂恭子先生のもと会員17名
- 川柳教室 月1回 第3水曜日午後実施 関谷省三先生のもと会員16名
- 詩吟教室 本年度中に開講予定 講師 伊賀上峰山先生

各講座の会員の皆さんは、各先生のご指導のもと、楽しく熱心に受講されております。

ご入会ご希望の方、興味のある方は市教育会事務局までご連絡ください。